

- 遠賀川や支川庄司川において、平成30年7月豪雨で内水による浸水被害が発生。令和2年7月に「庄司川総合内水対策計画」を策定し、国、福岡県、飯塚市が連携して総合的な内水対策を促進。
- 遠賀川の河道掘削及び庄司川排水機場を増設し、浸水被害軽減を図る。

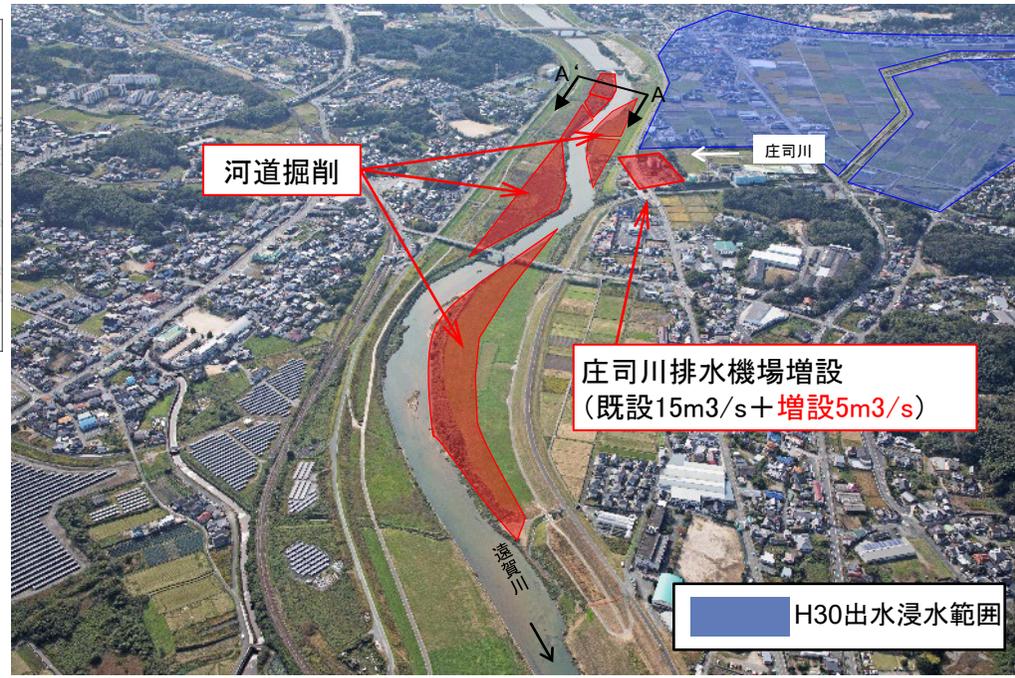
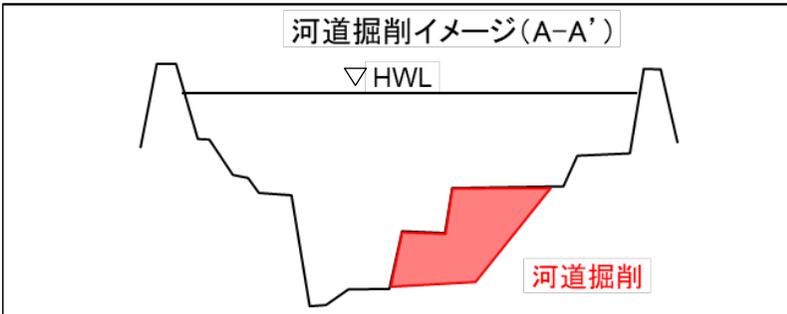
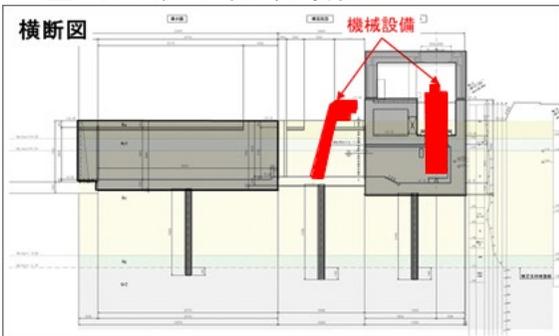


事業費：2,032百万円

※遠賀川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しています。

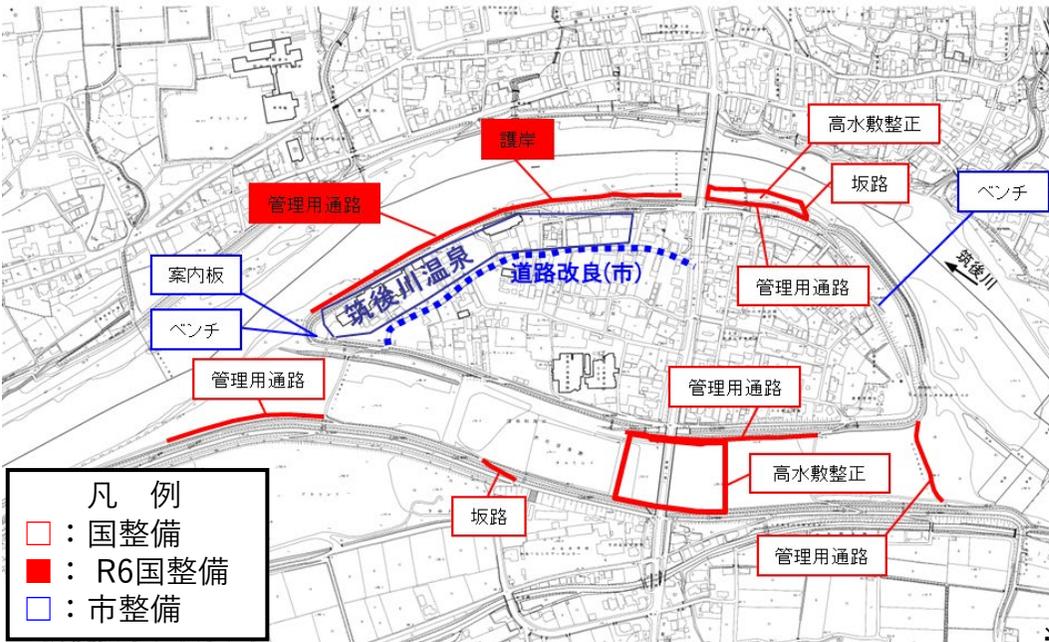
■ 令和6年度実施内容  
排水機場増設 一式  
河道掘削 V=10千m<sup>3</sup>

▼ 庄司川排水機場増設



■大石地区では令和2年3月にかわまちづくり計画が登録され、地域住民やうきは市とともに、筑後川とまちが一体なった水辺空間の整備を進めることで、筑後川の豊かな自然環境や雄大な景観、国民保養温泉地である筑後川温泉をはじめとする地域資源の魅力をつなぎ、新たなアメニティー空間を創出し、地域の活性化を図る。

【位置図】



- 凡例
- : 国整備
  - : R6国整備
  - : 市整備



**事業費：114百万円**

**令和6年度実施内容**  
管理用通路、護岸

※事業費:当該年度の事業費を記載しています。

# 巨瀬川緊急治水対策事業【直轄】

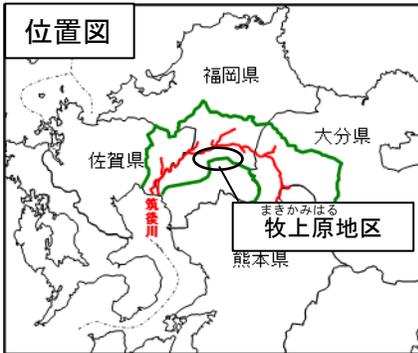
(筑後川直轄河川改修事業)  
(緊急対策特定区間)

継続

河川-3

- 筑後川水系巨瀬川では、令和5年7月豪雨により管理区間各所で越水氾濫が生じ、甚大な被害が発生した。
- このことから、緊急対策特定区間を指定し、緊急的に河道掘削や築堤等の河川整備を実施することにより、浸水被害の軽減を図る。

## 位置図

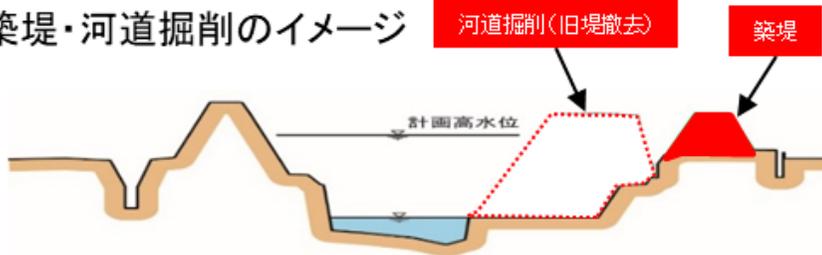


事業費：4,349百万円

※筑後川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しています。

- 令和6年度実施内容
- 橋梁改築 1基
- 樋門・樋管改築 1基
- 築堤 L=300m等

## 築堤・河道掘削のイメージ



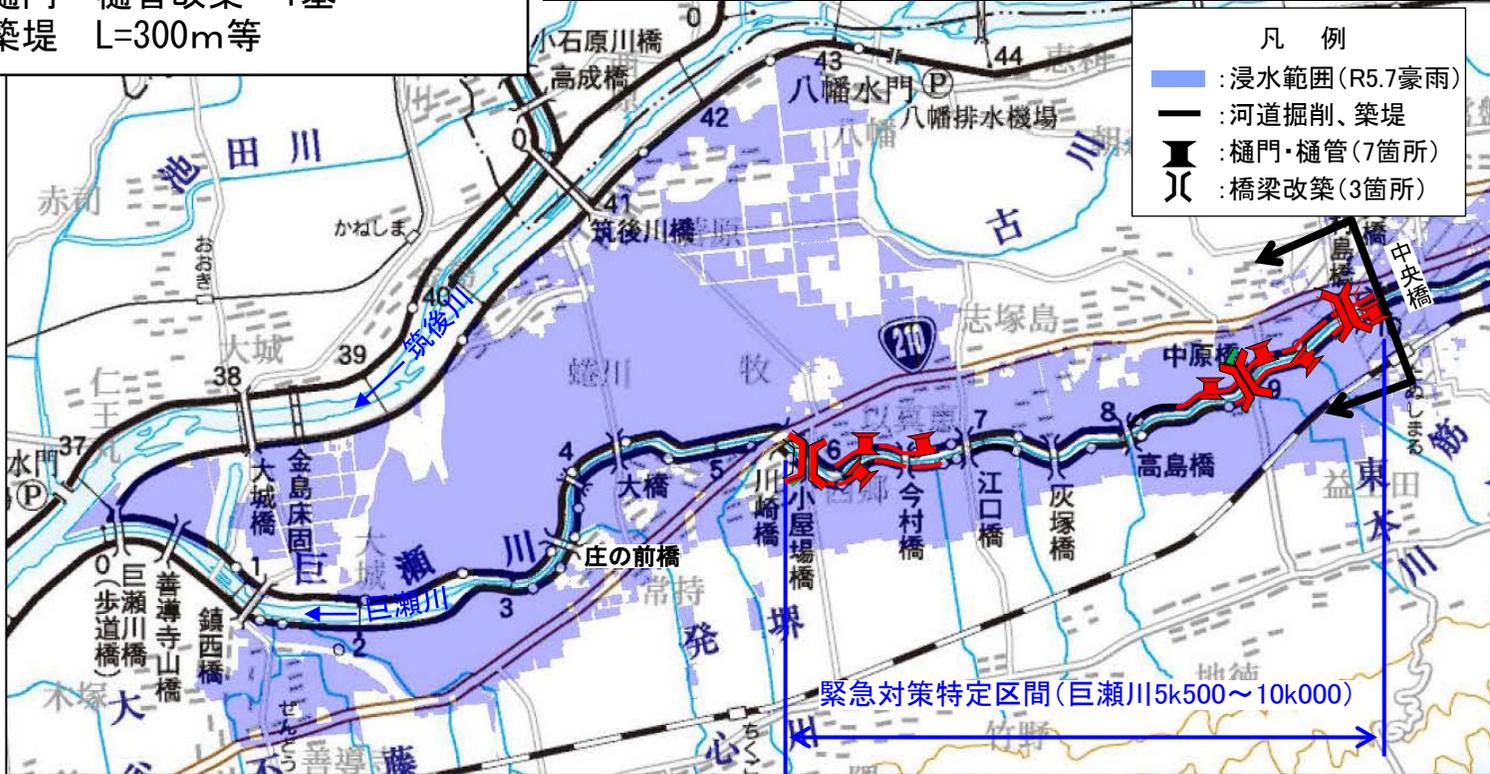
## 令和5年7月豪雨の状況



▲巨瀬川左岸1k000～2k000付近の浸水状況



▲巨瀬川4k000付近の浸水状況



■佐賀導水路は、近年、不具合が頻繁に発生していることから、出水時において安定的に施設機能が発揮できないおそれがあるため、施設の抜本的改良、高度化及び耐震対策を行うための堰堤改良事業に着手し、信頼性・効率化等の向上を図る。

**事業費:64百万円**

※事業費:当該年度の事業費を記載しています。

令和6年度実施内容  
 巨勢川調整池及びポンプ更新設計 1式  
 耐震対策設計 1式



巨勢川調整池



巨勢川ポンプ場(東漕系)

ポンプ更新設計(東漕系)



ガスタービンエンジン(既設)

耐震対策設計(筑後川吐出樋管)



筑後川吐出樋管

■令和元年8月豪雨では、六角川水系牛津川において観測史上最高水位を記録し、水系各地で洪水氾濫による、甚大な被害が発生した。

■六角川激甚災害特別緊急事業より河道掘削、排水機場増強、遊水地整備等を実施することで、浸水被害軽減を図る。



▲写真①牛津川越水状況



▲写真②小城市街地浸水状況

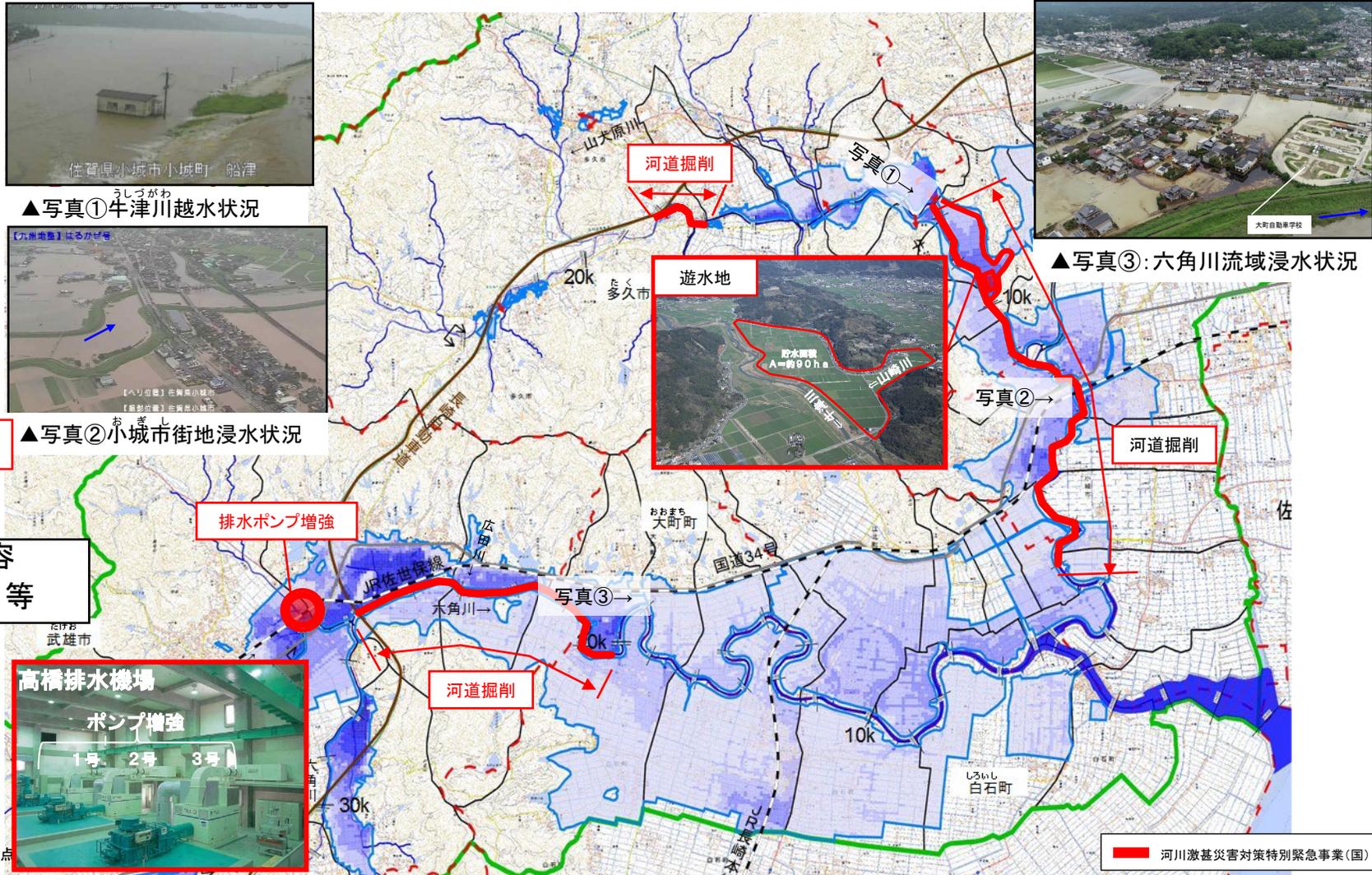


▲写真③六角川流域浸水状況

**事業費：4,667百万円**

※事業費：当該年度の事業費を記載しています。

**令和6年度実施内容**  
遊水地整備 一式 等



令和元年8月洪水		
家屋	床上浸水	1,132戸
	床下浸水	1,804戸
	合計	2,936戸
浸水面積		6,900ha

※国交省・佐賀県調べ(令和元年9月30日時点)

## ■事業概要

○場所 佐賀県かんざし神埼市ちくごがわ(筑後川水系城原川じょうばるがわ)

○目的 洪水調節

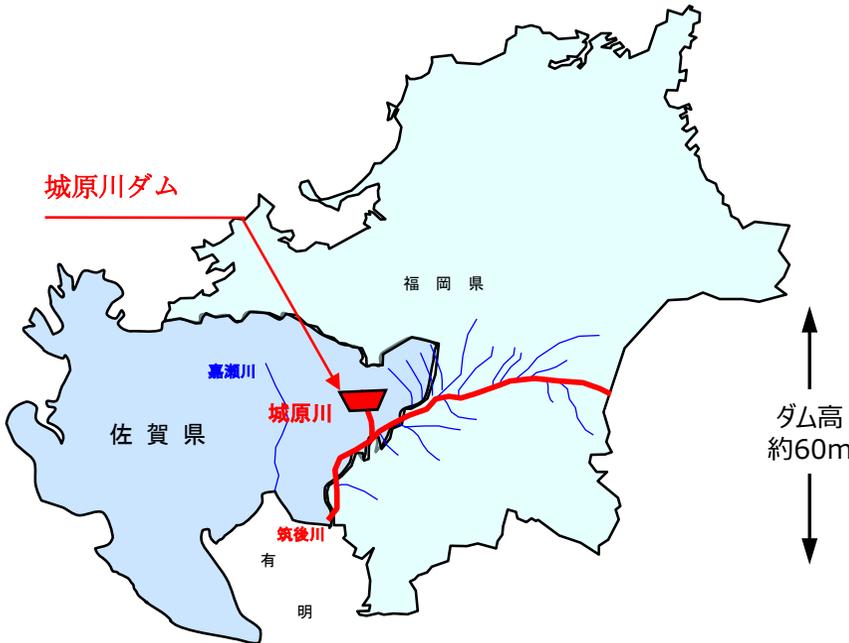
○諸元 堤高:約60m 総貯水容量:約3,550千m<sup>3</sup>

○経緯 昭和54年度 実施計画調査着手  
平成30年度 建設事業着手

○事業効果 ダムによる洪水調節を行い、城原川ダム下流域の治水安全度の向上を図る。

◆洪水被害軽減を図る洪水調節専用のダム

位置図



## ■令和6年度実施内容

本体関連の調査・設計、用地補償 等

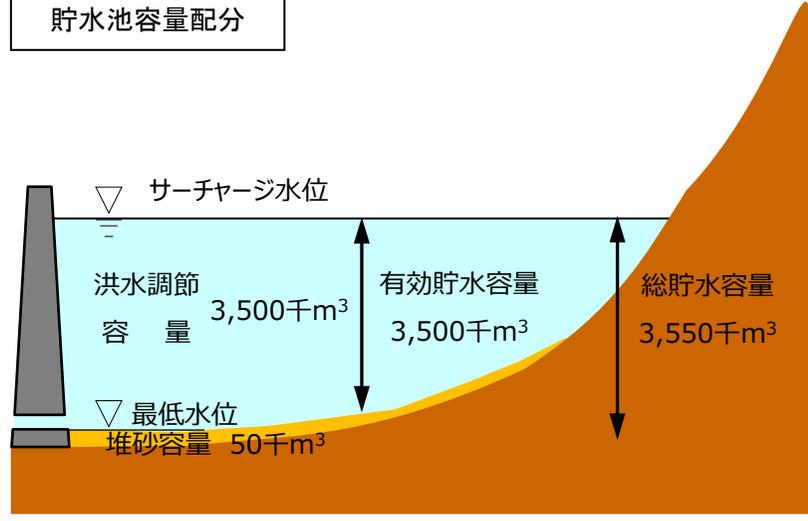
**事業費：1,084百万円**

※事業費:当該年度の事業費を記載しています。

城原川ダム完成イメージ



貯水池容量配分



## ■事業概要

いさはやし ほんみょうがわ ほんみょうがわ

- 場所 長崎県諫早市(本明川水系本明川)
- 目的 洪水調節  
流水の正常な機能の維持
- 諸元 堤高:約60.0m 総貯水容量:約6,200千m<sup>3</sup>
- 経緯 平成2年度 実施計画調査着手  
平成6年度 建設事業着手
- 事業効果 ダムによる洪水調節を行い、本明川ダム下流域の治水安全度の向上を図る。また、下流河川の環境を維持するための水量を確保し渇水被害の軽減を図る。

### ◆洪水被害と渇水被害の軽減を図るダム

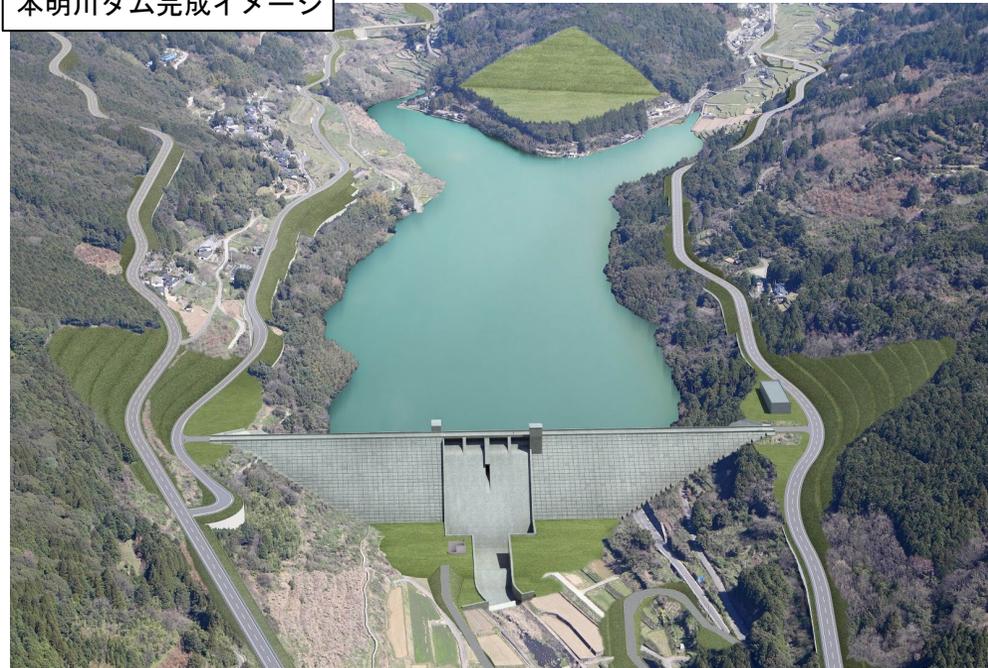
## ■令和6年度実施内容

本体工事、付替道路工事 等

事業費：3,156百万円

※事業費:当該年度の事業費を記載しています。

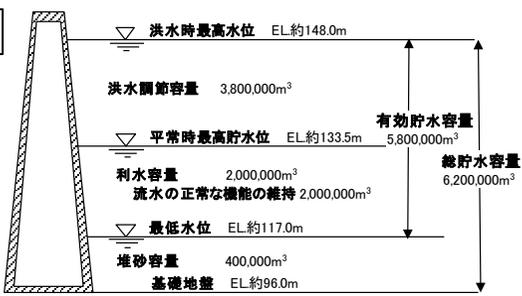
本明川ダム完成イメージ



位置図



諸元



付替市道施工状況 (R6.3撮影)



工事用道路施工状況 (R6.3撮影)

■白川市街部の下流部に位置している固定堰群(3堰)は、洪水時の流下阻害となり、河川整備計画規模(1/60)の洪水(2,400m<sup>3</sup>/s)に対して流下能力が不足している。併せて平成28年の熊本地震発生以降、上流からの土砂供給が著しいことから、土砂堆積の抑制を図るべく固定堰群の改築を行う。

位置図



事業費：1,178百万円

※白川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しております。

■令和6年度実施内容  
堰改築(右岸部)等



■緑川ダムは、管理開始から53年経過しており、洪水調節容量内の堆砂が進行している状況であり、洪水調節機能に支障を及ぼすおそれがあるため、洪水調節容量内の堆積土砂を集中的に除去するとともに、恒久対策としての揚土栈橋等の整備を行うべく、堰堤改良事業に着手する。



貯水池堆砂状況

事業費:40百万円

※事業費:当該年度の事業費を記載しています。

令和6年度実施内容

掘削実施設計 1式

恒久施設設計 1式



緑川ダム



対策概要図

- 球磨川水系川辺川は、令和2年7月出水により、相良村内で床上184戸の甚大な家屋浸水被害が発生した。
- 本区間は、川辺川に建設予定の流水型ダムの下流に位置しており、ダムによる流量低減と河道整備により浸水被害を解消し、再度災害防止を図る。そのため、大規模特定河川事業により河道掘削、築堤を集中的に実施する。



平面図

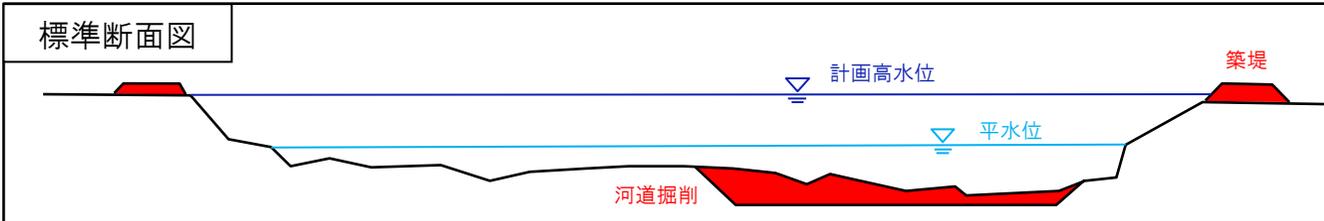
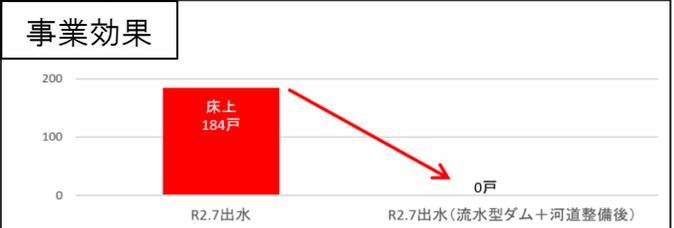
**事業費：100百万円**

※事業費：当該年度の事業費を記載しています。

**令和6年度実施内容  
河道掘削等**



発生年月日	名称	相良村 浸水家屋数(戸)		
		床上	床下	合計
R2.7	豪雨	184	0	184



# 熊本市街部(緑の区間)堤防整備事業【直轄】(白川直轄河川改修事業) 完成 河川-11

■白川は熊本市街部を貫流し、一度氾濫した場合には拡散型で広域にわたり甚大な被害となるため、順次下流より段階的に河積拡大を図っている。緑の区間においては、上下流一連の高さでの堤防整備を完了させる。

位置図

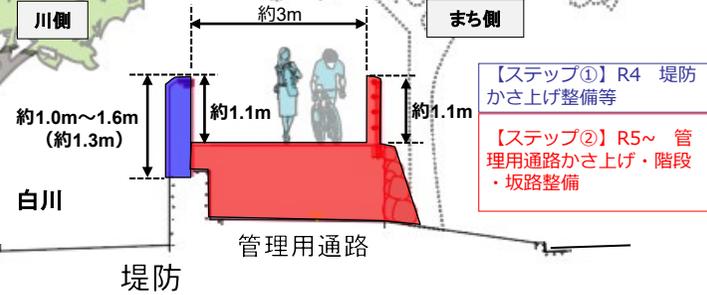


事業費：1,178百万円

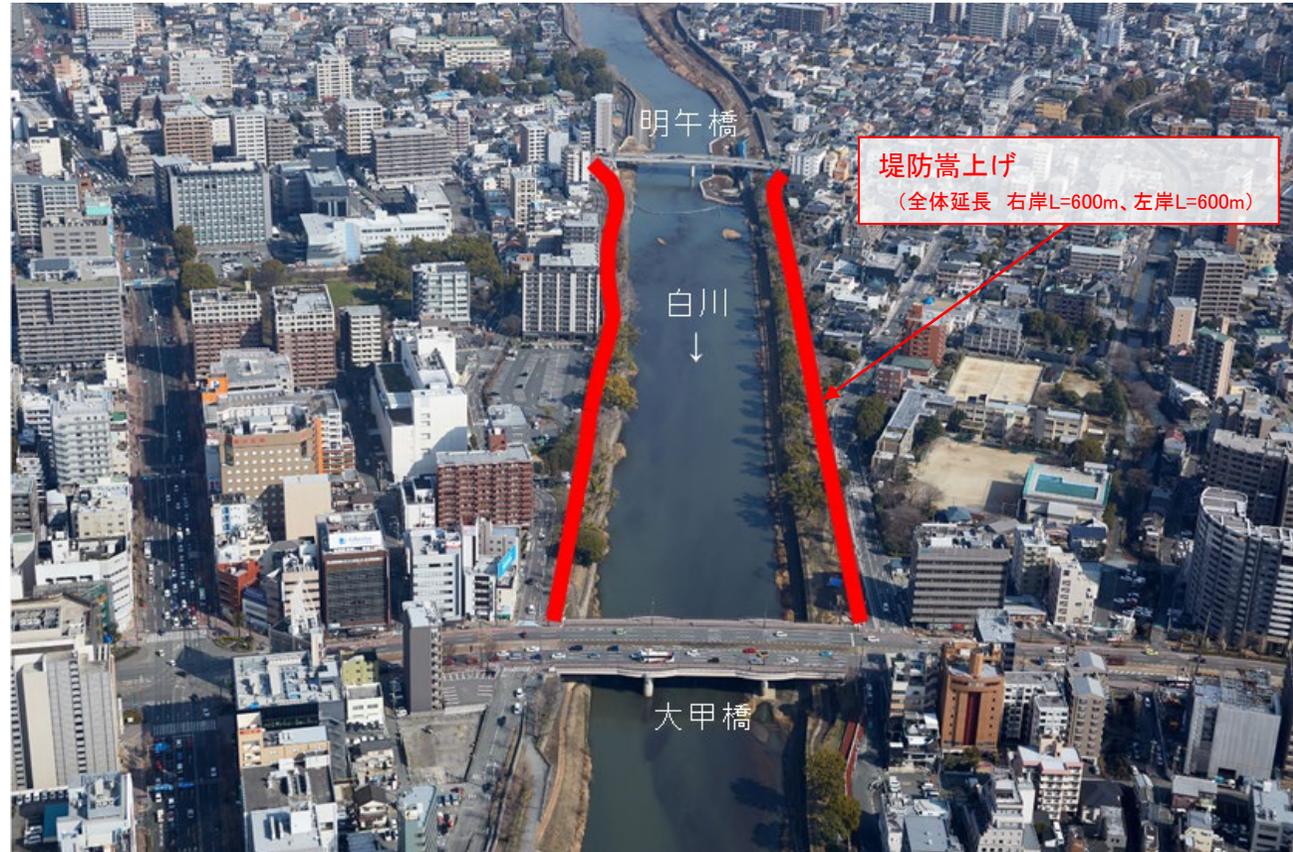
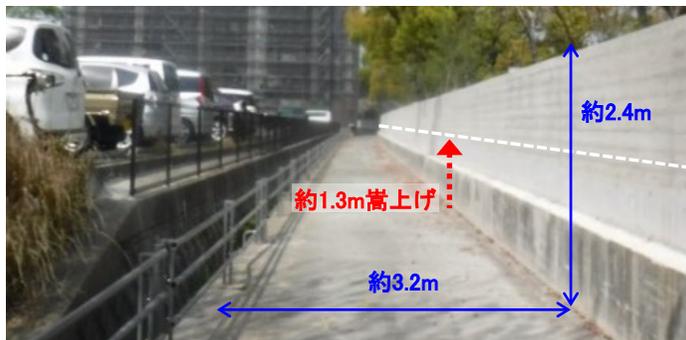
■令和6年度実施内容  
堤防嵩上げ L=400m等

※白川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しております。

緑の区間横断面(イメージ)



▼堤防嵩上げ状況(右岸側)



## ■球磨川水系(川辺川)直轄砂防事業(八代市泉町、球磨郡五木村、球磨郡相良村)

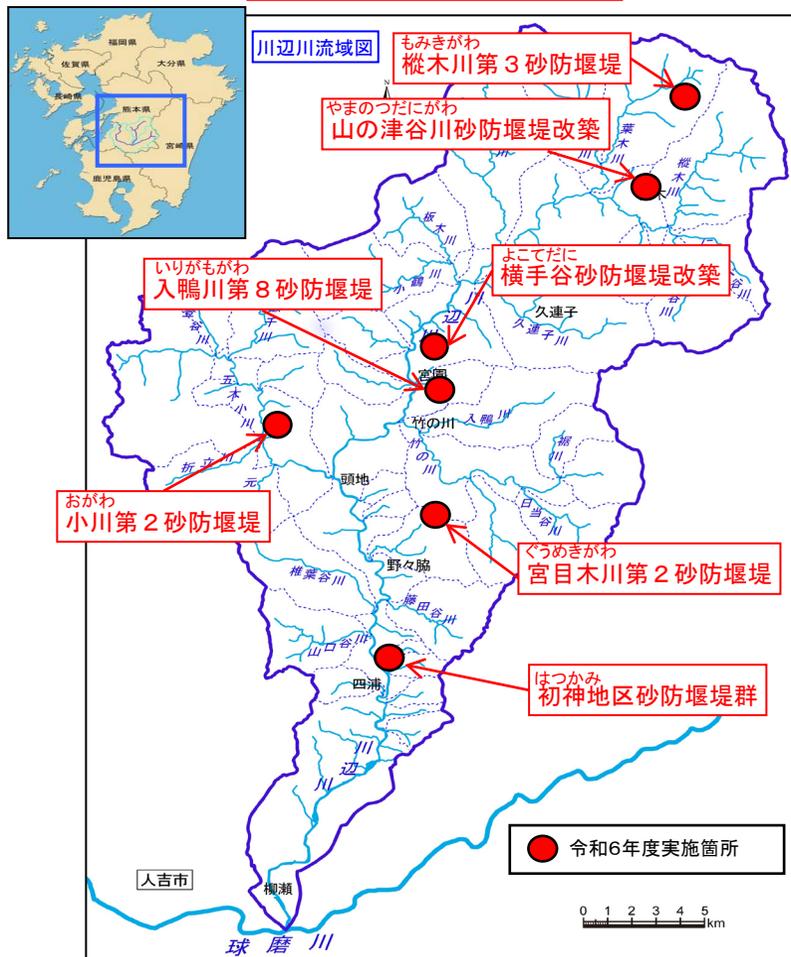
- 川辺川流域は、急峻な地形、脆弱な地質条件を有しており、多雨地帯でもあることから、これまで頻りに豪雨により土砂災害を引き起こしており、近年では平成24年に土石流が発生し甚大な被害をもたらした。
- 豪雨時に発生する山腹崩壊や土石流等の土砂流出に起因する災害から流域住民の生命や財産を守るため、砂防設備を整備し、下流河川の河床上昇に伴う洪水被害及び人家・公共施設等に対する直接的な土砂災害を防止・軽減する。

### R6実施箇所 計7箇所

### ●令和6年度実施内容:砂防堰堤工 等

事業費：774百万円

※球磨川水系(川辺川)における直轄砂防事業の令和6年度事業費を記載しています。



### ■代表実施箇所



## ■阿蘇山直轄砂防事業(阿蘇市、高森町、南阿蘇村)

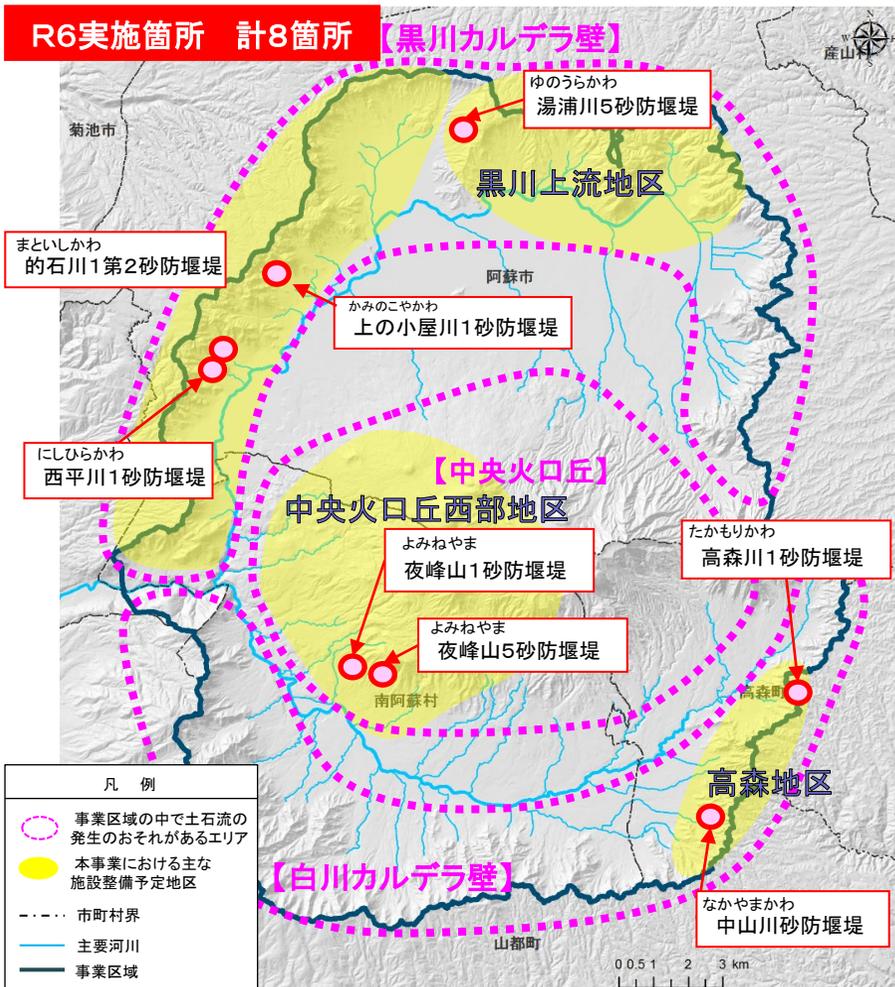
○事業区域(阿蘇カルデラ内)では、平成28年熊本地震とその後の豪雨により土砂災害が発生しており、事業区域の溪流及び河川には依然として不安定な土砂が堆積していることから、砂防堰堤等の整備を行い、集落等への直接的な被害を防止・軽減するとともに、下流河川に流出する土砂量を低減し、土砂洪水氾濫による被害を軽減する。

### ●令和6年度実施内容:砂防堰堤工 等

事業費: 2,079百万円

※阿蘇山における直轄砂防事業の令和6年度事業費を記載しています。

### R6実施箇所 計8箇所 【黒川カルデラ壁】



### ■代表実施箇所

#### 中山川砂防堰堤

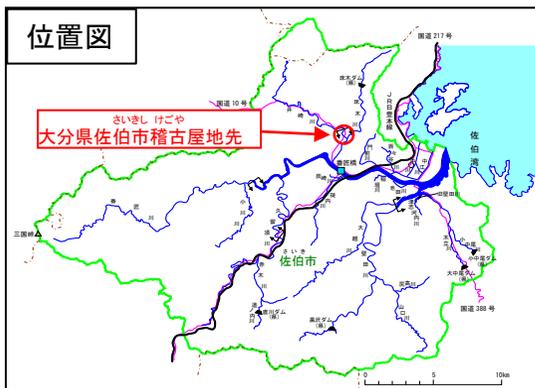


計画地点航空写真



- 平成29年9月(台風18号)洪水では、堤防越水による外水被害が発生。
- 大分県と連携し、築堤護岸を整備することで、大分県の整備と合わせて浸水被害の解消が図られる。

位置図

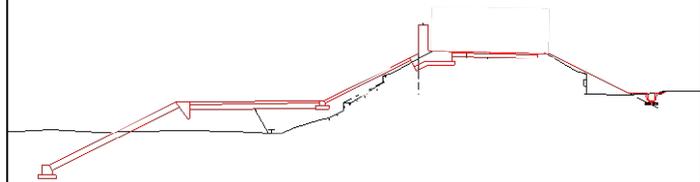


事業費：222百万円

※番匠川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しています。

■令和6年度実施内容  
用地補償 1式 等

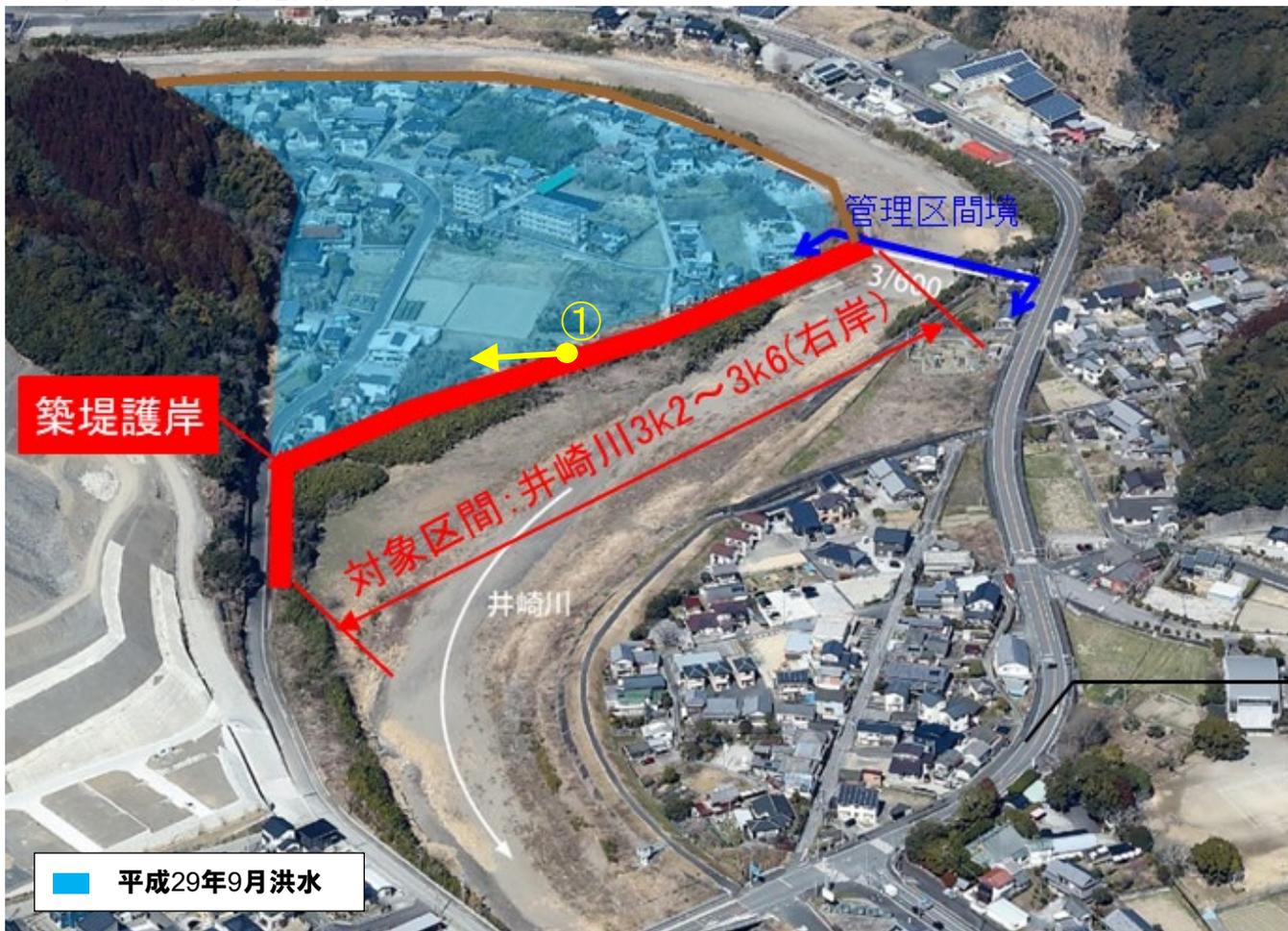
築堤護岸対策イメージ



H29.9月浸水状況



稽古屋地区



■令和4年9月の台風第14号出水では、金田地区上流の下川東地区において、内水氾濫により100戸を超える家屋浸水が発生。

■大淀川上流部の金田地区においては、上下流に比べて河幅が狭いことから引堤を実施し、<sup>みやこのじょう</sup>都城市街部上流で整備中の<sup>おおいわだ</sup>大岩田遊水地の効果とあわせて、河川水位の低下による内水被害の軽減を図る。

位置図



みやこのじょうかなだ  
宮崎県都城市金田地先

事業費：1,154百万円

※大淀川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しています。

■令和6年度実施内容  
用地取得 A=0.5 ha等

▼令和4年9月の台風第14号における浸水状況



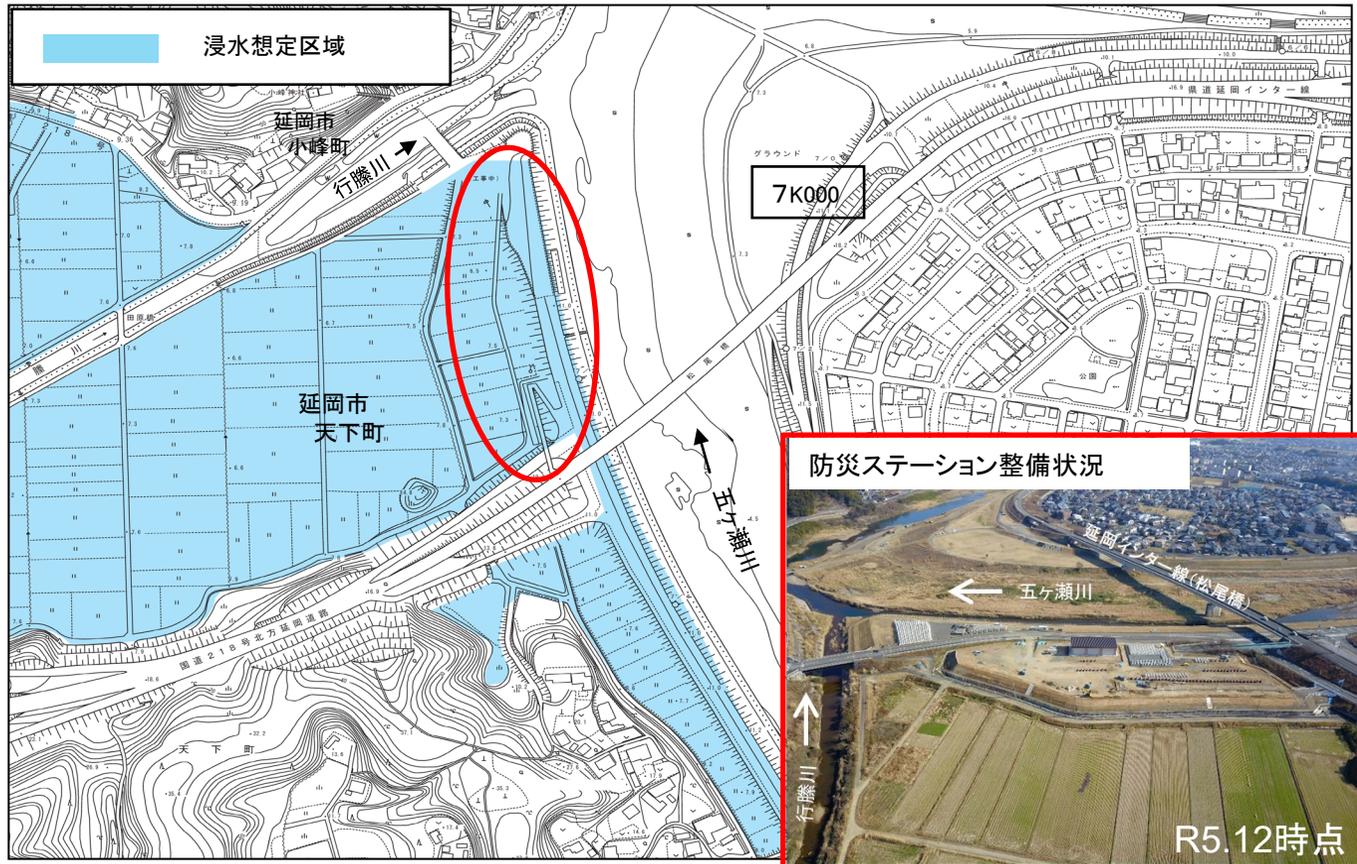
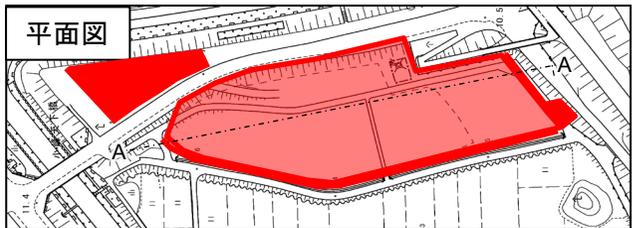
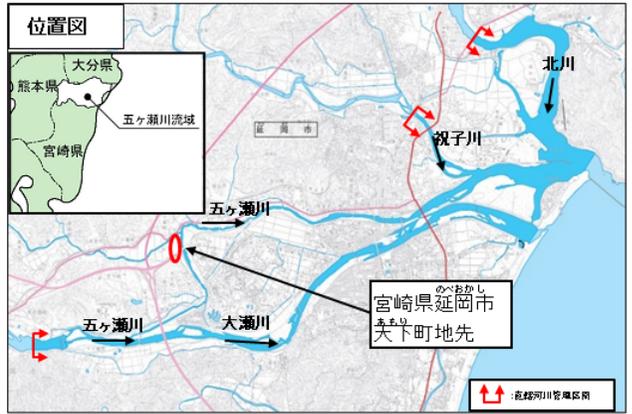
■気候変動の影響による災害の激甚化・頻発化に対応するため、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」の一環として、洪水被害のみならず南海トラフ地震による津波被害等も想定し、延岡市と連携し防災ステーションを基点とした五ヶ瀬川防災ネットワーク(避難・復旧時のアクセス)構築を図る。

■災害時の緊急復旧活動を行う上で必要となる緊急復旧用資材の備蓄、災害対策車庫、ヘリポート等の機能を有する防災ステーションを整備する。

**事業費：433百万円**

■令和6年度実施内容  
**防災ステーション整備 1式 等**

※五ヶ瀬川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しています。



みやざきけんにしもるかたぐんたかはるちょう みやこのじょうし  
■大淀川水系直轄砂防事業(宮崎県西諸県郡高原町、都城市)

○高崎川上流域の大幡川、矢岳川、高千穂川は火山地帯に位置し、地質的にも新しいため、ガリー侵食の発達が著しく、多量の不安定の供給源となっている。また、平成23年1月19日の新燃岳の爆発的噴火に伴う降灰により、土石流の発生の危険性が高まっていることから、砂防堰堤等を整備し、下流河川の河床上昇に伴う洪水被害及び人家、公共施設等に対する直接的な土砂災害を防止する。

【位置図】



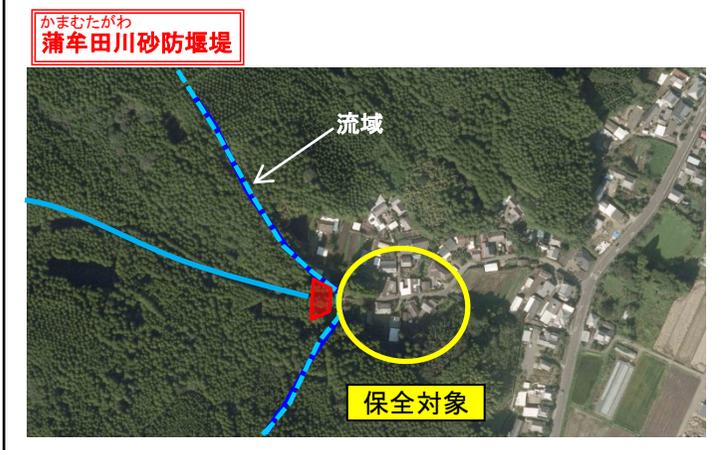
令和6年度  
実施内容: 砂防堰堤工 等

事業費: 1,049百万円

※大淀川水系における直轄砂防事業の令和6年度事業費を記載しています。



■代表実施箇所



■当該地区は川幅が狭いことから、整備計画流量をHWL以下で安全に流下させるため、一連区間において引堤事業に着手する。

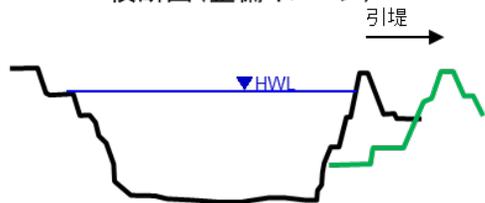
**事業費：1,737百万円**

※川内川水系における直轄河川改修事業の令和6年度事業費を記載しています。

■令和6年度実施内容  
用地調査 1式 等



横断面図(整備イメージ)



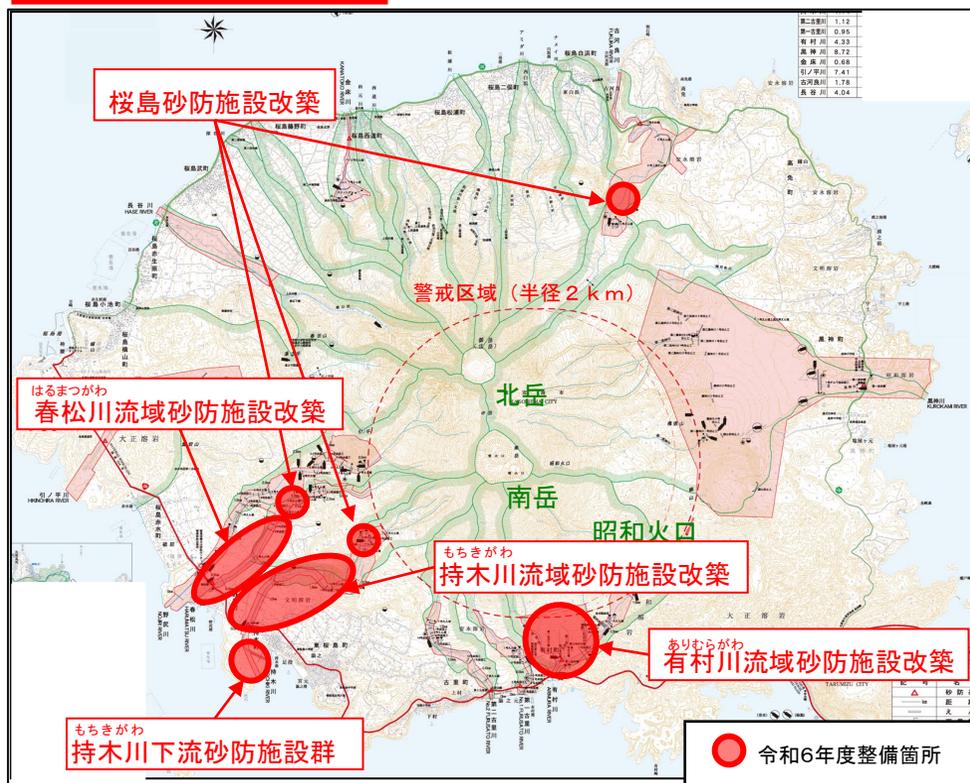
■桜島直轄砂防事業(鹿児島市)

○桜島は、活発な噴火活動が継続しており、多量の降灰により降雨時に土石流が頻発。土石流による被害を防止するため、持木川等において砂防堰堤等を整備。

●令和6年度

実施内容:砂防堰堤工(補修・補強)、溪流保全工 等

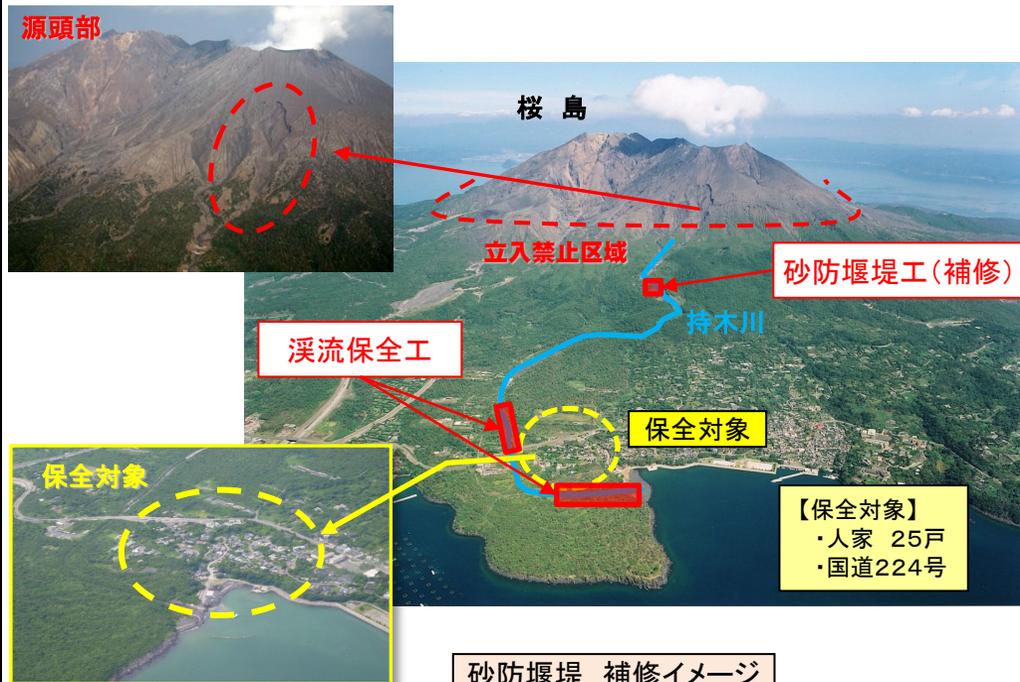
R6実施箇所 計5箇所



事業費:1,113百万円

※桜島における直轄砂防事業の令和6年度事業費を記載しています。

■代表実施箇所



砂防堰堤 補修イメージ



対策前

対策後